

四倉の家 (2004年)

明治以来の旅館を住宅に建て替える工事。コンセプトは『時代の継承』

以前の建物から引き継げる物は引き継ごうと解体前に建具、照明器具、小物等を整理して番号を振っておきました。解体時には柱、梁、天井材、床材、壁材等を丁寧に採り、再使用としました。敷地は四倉港のすぐ前に位置している



ため塩害対策として断熱性能も考慮した樹脂サッシ、外壁は板張り
とガルバリウム鋼板仕上げ。

各部屋にどうにか古材の配置をすることができましたが、工事中は試行錯誤の繰り返しでした。以前の建物が大規模だったため使えるものがたくさん出てきていたのです。ただ古い物を使えば良いというものでもなく、クライアントの認識とこちらの認識とのずれも多少とも生じます。

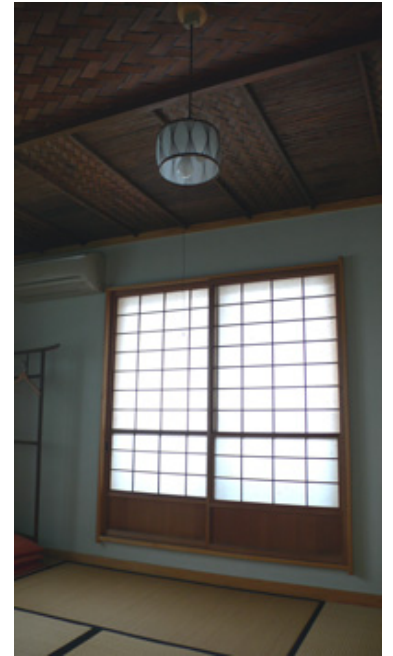
当然ながら室内環境も考慮しなければなりません。暖房設備として床下設置型の温水式ラジエーターと薪ストーブを設置しました。



リビング部が一番旅館のなごりが継承されています。クライアントの要望であったストリップ階段は以前の階段の段板を使用し、客室の障子は南面に二段に配置されています。玄関の引違い戸は入り口に配し欄間、スタンドグラス等も配置しました。床材をヘリンボーン形式としたため大工さんがかなり苦勞もしたようです。天井は以前の網代天井を使いました。

この部屋で薪ストーブを前にし、ソファに座ると確かに以前の旅館の臭いがしてきます。

『穏やかな空間』になりました。それでもこの部屋の照明器具はルイスポールセンやレ・クリントだったりします。



よく外観と内部の様子の違いを指摘されますが、建築の面白いところです。



Data

所在地：福島県いわき市内

家族構成：両親+夫婦+子供二人

構造規模：木造在来工法、二階建て

設計監理：吉田敏彦建築設計室